



S.Suzuki

THE MAINICHI OKAN

第76回 毎日王冠 (GII)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着
本 賞 67,000,000円 27,000,000円 17,000,000円 10,000,000円 6,700,000円
付加賞 798,000円 228,000円 114,000円



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

3歳以上、除未出走馬および未勝利馬

負担重量 3歳55⁺・4歳以上57⁺、牝馬2⁺減、2024.9.28以降G I競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2⁺増、
牝馬限定G I競走またはG II競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1⁺増、2024.9.27以前のG I競走(牝馬限定
競走を除く)1着馬1⁺増(ただし2歳時の成績を除く)

2025.10.5 東京 曇・良 芝1800m (国際) (確定)

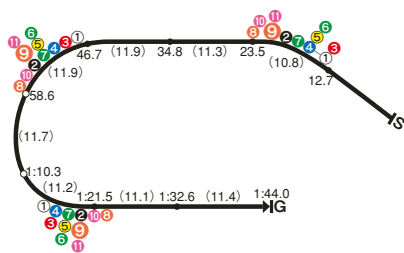
着順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑧	レーベンスティール	牡 5	57	津村明秀	1:44.0	3-3-3	33.3	484(±0)	7.7⑤	田中博康(美浦)	116
2	⑧	ホウオウビスケッツ	牡 5	57	岩田康誠	1/2	1-1-1	33.8	508(-6)	4.3②	奥村 武(美浦)	115
3	⑩	サトノシャイニング	牡 3	55	武 豊	3/4	2-2-2	33.7	498(+2)	2.4①	杉山晴紀(栗東)	114
4	③	ディマイザキッド	牡 4	57	岩田望来	1 1/2	10-10-9	33.2	464(+4)	28.7⑦	清水英克(美浦)	111
5	②	エルトンパローズ	牡 5	57	西村淳也	1/2	5-3-3	33.8	516(-4)	6.9④	杉山晴紀(栗東)	
6	⑤	ジェイバームス	騾 5	57	佐々木大輔	3/4	7-6-6	33.6	510(±0)	57.4⑩	堀 宣行(美浦)	
7	⑥	チェルヴィニア	牝 4	56	戸崎圭太	クビ	7-6-6	33.8	500(+16)	5.0③	木村哲也(美浦)	
8	①	ロングラン	騾 7	58	丹内祐次	クビ	10-11-11	33.3	490(+14)	48.4⑧	和田勇介(美浦)	
9	⑦	シルトホルン	牡 5	57	大野拓弥	3/4	6-6-6	33.9	464(-14)	36.0⑨	新開幸一(美浦)	
10	④	ラファドゥラ	牝 5	55	菅原明良	1/2	7-9-9	33.8	496(+6)	132.9⑪	小島茂之(美浦)	
11	⑪	シリウスコルト	牡 4	57	古川吉洋	1 1/4	3-3-3	34.5	496(+6)	26.4⑥	田中勝春(美浦)	

単勝⑧770円(5⁺) 複勝⑧190円(5⁺) ⑧140円(2⁺) ⑩120円(1⁺) 格連⑦1,890円(7⁺)

馬連⑧-⑧1,850円(8⁺) ワイド⑧-⑧560円(8⁺) ⑨-⑩450円(5⁺) ⑨-⑩240円(1⁺)

馬単⑧-⑧4,290円(17⁺) 3連複⑧-⑩1,360円(4⁺) 3連単⑧-⑧13,250円(45⁺)

5重勝⑩⑩⑩⑩⑩475,171,040円(4票) 対象競走：東京9R/京都10R/東京10R/京都11R/東京11R



通過タイム： 600m 800m 1000m 上り： 800m 600m
34.8 - 46.7 - 58.6 45.4 - 33.7

アラカルト

- ・津村明秀騎手は毎日王冠初勝利。J R A重賞は本年3勝目、通算21勝目
- ・田中博康調教師は毎日王冠初勝利。J R A重賞は本年2勝目、通算12勝目
- ・リアルスティール産駒はJ R A重賞通算7勝目
- ・父リアルスティールは17年に本競走を制しており、本競走3組目の父子制覇となった(グレード制を導入した84年以降)
- ・5歳馬の勝利は22年サリオスに続く通算18回目
- ・レーベンスティールは天皇賞(秋) (G I) に優先出走できる

レーベンスティール *Lebensstil*

牡 鹿毛 2020.3.8生
北海道日高町 広富牧場生産
馬主・宥キャロットファーム 美浦・田中博康厩舎
馬名意味・生き様(独)。父名、母名より連想。生き様が魅了する馬になるように

マギーズグズNZ系 F5

リアルスティール 鹿毛 2012	ディーブインパクト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA ウインドインハーヘアIRE
	ラヴズオンリーミーUSA 鹿毛 2006	Storm Cat Monevassia
トウカイライフ 黒鹿毛 2007	トウカイテイオー 鹿毛 1988	シンボリルドルフ トウカイナチュラル
	ファヴォリ 青鹿毛 1996	リアルシヤダイUSA ベイリーフスイータ

5代までのインブリード: Hail to Reason S5×M5 Northern Dancer S5×M5

INTERVIEW

高橋三千代氏(広富牧場)

言葉だけでは表現できないほど嬉しかったです

サポートしてくださった皆さまのお陰で、高齢の母(高橋裕子代表)と牧場スタッフと一緒に東京競馬場で勝利の瞬間に立ち会うことができました。感謝という言葉だけでは表現できないほど嬉しかったです。これからも本馬の関係者への感謝を忘れず、私たちの馬に期待してくださっている方々のためにも、日々しっかりと馬と向き合っていきたいと思っています。

Y.Hamano



いた今年も意欲的に主導権を奪取。単騎の逃げに持ち込んでからは徐々にペースを落として風を切る。互角の勢いで飛び出したサトノシャイニングは2番手に控え、レーベンスティールの津村明秀騎手は背後の3番手を追走。一方のチエルヴィニアは中国の外につけ仕掛けのタイミングを窺った。迎えた直線、坂の上りで後続を突き放しにかかったホウオウビスケッツにサトノシャイニングが追いつく。2頭の外へ持ち出して追撃態勢を整えた津村騎手も坂下から本格的に仕掛け、最後の200mはこの3頭の追い比べに。マイペースの逃げを打ったホウオウビスケッツはしぶとく抵抗、サトノシャイニングもよく食い下がったものの、勝利の女神は一枚上の決め手を披露したレーベンスティールに微笑んだ。リアルスティールの初年度産駒にあたる本馬は、3歳秋のセントライト記念で皐月賞馬ソールオリエンスを2着に從えて重賞初制覇。昨年はエプソムC、オールカマーを連勝し、頂点のタイトルを射程に収めた。とはいえその後、スランプに陥り、続く秋の天皇賞は8着、今年もアメリカJCC12着、しらすきS7着と精彩を欠いたが、態勢を立て直されて臨んだこの日は久しぶりに本領を発揮。レースレコードを塗り替える快走で完全復活を印象付け、次走に予定されるマイルチャピオンシップに向けて大きく弾みをつけた。

父リアルスティール

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、首17戦4勝(ドバイターフ^{G1}、毎日王冠^{G2}、共同通信杯^{G3}、皐月賞^{G1}2着、菊花賞^{G1}2着、天皇賞(秋)^{G1}2着、神戸新聞杯^{G2}2着、スプリングS^{G2}2着、ドバイターフ^{G1}3着)、19年から日、豪で供用〔代表産駒〕**フォーエバーヤング**(サウジC・沙^{G1}、東京大賞典^{G1}、ジャパンダートクラシック^{Jh}I、全日本2歳優駿^{Jh}I、UAEダービー^{G2}、日本テレビ盃^{Jh}II、サウジダービー・沙^{G3}、JBC2歳優駿^{Jh}III、ケンタッキーダービー・米^{G1}3着、BCクラシック・米^{G1}3着、ドバイワールドC・首^{G1}3着)、**レーベンスティール**(本馬)、**オールバルフェ**(デリー杯2歳S^{G2}、**チカッパ**(東京盃^{Jh}II、北海道スプリントC^{Jh}III、JBCスプリント^{Jh}I2着)、**ヴェローチェエラ**(函館記念^{G3})、**カナルビーグル**(ユニコーンS^{G3})、**フェブランジェ**(スパーキングレディーC^{Jh}III)、**ヴィンセンシオ**(弥生賞ディーブインパクト記念^{G2}2着)、**ノイジーボーイ** Noisy Boy(タロクS・豪^{G2}2着)、**アレンジャー**(アーリントンC^{G2}2着)、**ティラトーレ**(フェアリーS^{G3}2着)

母トウカイライフ

北海道日高町 広富牧場生産 中央35戦3勝、地方3戦1勝
ロトヴィンテージ(15 牡父ヴァーミリアン)中央3戦0勝
サーチュイン(16 牝父クロフネUSA)中央17戦1勝、地方17戦1勝
ルーチェデラヴィタ(17 牝父キズナ)中央24戦2勝(コスモス賞^{Op})
ブラックライフ(18 牝父ブラックタイド)中央12戦0勝、地方16戦1勝
レーベンスティール 本馬(20 牡父リアルスティール)中央13戦6勝(毎日王冠^{G2}、オールカマー^{G2}、セントライト記念^{G2}、エプソムC^{G3}、ラジオNIKKEI賞^{G3}3着)、香1戦0勝 獲得総賞金263,544,000円
ティオームサシ(22 牡父ナダルUSA)中央12戦1勝
(24 牡父モーリス)
※19、25(前年種付せず)、21(流産)、23(生後直死)

祖母ファヴォリ

北海道門別町 広富牧場生産 中央3勝(蔵王特別)、16年用途変更
グラマトフィラム(04 牝父クロフネUSA)中央2勝
トウカイライフ(07 前出)

母の父トウカイテイオー

北海道新函館 中央9勝(ジャパンC^{G1}、日本ダービー^{G1}、皐月賞^{G1}、有馬記念^{G1})
〔BMS代表産駒〕**ブレイブスマッシュJPN** Brave Smash(マニカトS・豪^{G1}、フューチュリティS・豪^{G1}、サウジアラビアロイヤルC<重賞>、父トセンファントム)、**ヴィーヴァヴォドカ**(フラワーC^{G3}、父ダンスインザダーク)

久しぶりに本領を発揮し重賞3勝目

2023年のエルトンバローズ、昨年のシックスペンスと、2年連続で3歳馬が勝利を飾ってきた毎日王冠の主役と目されたのは今年も3歳馬。きさらぎ賞の勝ち馬で、皐月賞3着、ダービーでも4着に食い下がったサトノシャイニングが古馬勢を抑え、断然の支持を集めた。1年前(クビ差2着)の雪辱を期すホウオウビスケッツ、前年の牝馬三冠馬チエルヴィニアがこれに続いたものの、それらの前に立ちはだかつたのは5番人気のレーベンスティール。重賞3勝の実力馬が近走の不振から抜け出し、復活を宣言した。昨年は2番枠から逃けたホウオウビスケッツが、外めの枠7枠8番を引